

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2791100064
法人名	社会福祉法人 高陽会
事業所名	グループホーム 風の里
所在地	〒596-0003岸和田市中井町三丁目2-27 (電話) 072-448-7310
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	〒596-0808岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成21年3月4日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

開設年月日	昭和・平成19年5月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	8 人
非常勤	3 人
常勤換算	8.8 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費25,000 円他	
敷金	有 (円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		要介護2		3名		
要介護3	3名	要介護4		3名		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	82 歳	最低	73 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村内科 くめがわ医院 吉川病院 正木歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山県にある社会福祉法人高陽会が運営するグループホーム風の里は、南海本線春木駅とJR阪和線久米田駅の間に位置し、交通量の多い幹線道路に面している。グループホームの建物は平屋で、道路から奥まったところにある。和風の中にもモダンさを取り入れた玄関のドアを入ると静かな空間が広がり、落ち着いた雰囲気を感じさせている。バイキングや外食、希望を取り入れたメニューの日を作るなど、利用者にとって一番の楽しみである食の形態に力を入れている。利用者は、毎日の食材の買出しや、地域の行事、外食、ドライブ、散歩などに出かけている。職員は身体拘束の無いケアや、鍵をかけないケアを実践するために利用者所在確認表を用い、さりげなく見守ることで支援するなど工夫をし取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回ははじめての外部評価の受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価の意義を理解して前向きに取り組んでいる。自己評価にあたり、管理者や主任で自己評価を行い職員に回覧している。自己評価について職員間での話し合いはおこなっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、議事録を残している。会議には市職員、民生委員、町会長、家族代表や利用者、施設長、管理者が参加している。事業報告や地域のイベントなどの情報提供、家族からの相談など意見交換が行われている。また利用者の地域参加への足がかりともなっている。法人内の認知症サポーターが認知症の理解を深めるために会議で講習も行っている。防災に関しても運営推進会議で地域の人々の協力を要請している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に便りを発行している。事業所開設当初から現在までに2回、家族アンケート調査を行い、家族などの率直な意見を聞き取る努力をしている。運営推進会議には家族代表や利用者が参加している。家族訪問時は利用者の暮らしぶりを伝え、希望などを聞いている。家族会は開いていないが、日曜日の行事等に家族の参加を呼びかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会や老人会に加入していないが、回覧板が回覧され町会のイベントにもお誘いが有る。町会長は老人会長も兼ねていて、事業所に協力的である。利用者はイベントや作品展に出品する等の参加もしている。また、近隣の町のふれあいサロンや寺院の行事にも参加している。週一回地域の将棋クラブのメンバーの訪問がある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生き方を尊重した生活を目指し、生活の質の向上に努め、安全で適切な暮らしの場を提供すると共に、利用者の在宅や地域での生活との繋がりを維持するために、利用者と家族が、共に安心と信頼と満足が得られるような支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を職員手帳に記載し、事業所の理念は玄関ホールと職員事務所の見やすい場所に掲示している。新任職員の研修時には理念について伝えている。理念を分かり易い言葉で表現し、図を取り入れて見やすくしたパンフレットを配布している。理念に沿った具体的な取り組みは日々の実践で伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会や老人会に加入していないが、回覧板が回覧され町会のイベントにもお誘いが有る。町会長は老人会長も兼ねていて、事業所に協力的である。利用者はイベントや作品展に出品する等の参加もしている。また近隣の町のふれあいサロンや寺院の行事にも参加している。週一回地域の将棋クラブのメンバーの訪問が有り、利用者が楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回がはじめての外部評価の受審である。管理者は外部評価の意義を理解して前向きに取り組んでいる。自己評価にあたり、管理者や主任で自己評価を行い職員に回覧している。自己評価について職員間での話し合いを行っていない。	○	全職員に外部評価・自己評価の意義を説明し、全職員で自己評価に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、議事録を残している。会議には市職員、民生委員、町会長、家族代表や利用者、施設長、管理者が参加している。事業報告や地域のイベントなどの情報提供、家族からの相談など意見交換が行われている。また利用者の地域参加への足がかりともなっている。また法人内の認知症サポーターが認知症の理解を深めるために講習も行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類提出時は市役所に出向き、研修関係も市町村に相談している。常に話し合う機会を持つように心がけ、相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回便りを発行している。便りの中に利用者の写真を入れ、一人ひとりの生活の様子が分かるように配慮している。また、家族の訪問時には利用者の暮らしぶりを伝えるようにしている。金銭管理報告も行っている。家族会は開いていないが、日曜日の行事等に家族の参加を呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設当初から現在までに2回、家族アンケート調査を行い、家族などから率直な意見を聞き取る取り組みをしている。1～2ヶ月に1回2名の介護相談員の来訪を受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるために、採用時に長期勤務の可能な人材を確保するように留意している。開設以来退職者は少ない。離職等があった場合は、慣れ親しんだ担当者が新任の職員に付き、紹介をしながら1週間ほど基礎研修を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入職時には基礎研修を行い、フォローアップ等の内部研修は2ヶ月に1回行っている。内部研修は全職員が受講し、研修終了後はレポートの提出を義務付け指導者のコメントも記入している。外部研修においても、経験や習熟度に応じた研修の機会を計画的に確保している。職員の資格取得を応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の施設部会やグループホーム連絡会で、情報交換を行っている。他県にある同一法人内のグループホームの事業所とも交流しサービスの質の向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム単独の施設なので、他のディサービスの事業所との協力の下、ディサービスの帰りに立ち寄ってもらうなど馴染んでもらえるように配慮している。管理者やサービス計画作成者はサービス利用前には利用者本人の自宅を訪問し、十分話し合い馴染みの関係を作るように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、職員と一緒に調理・洗濯・掃除・編み物・裁縫・水遣り・草引きなど一人ひとりの得意分野で役割を持てるように配慮し、利用者が力を発揮できるように支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始時に利用者や家族などから日頃の思いや意見を聞き取り、アセスメント記録に利用者の生活情報、本人・家族の出来ること、好み、意向などを記録している。また、意思疎通の困難な利用者の意向は家族から情報を得て利用者の意向に沿うように支援している。	○	入居後に得られた利用者の新しい情報は、申し送り記録や日々の個人カルテに記載するだけでなく、アセスメント記録に追記するなど、利用者個々のファイルにまとめて記載する方法を検討し、職員間で情報を共有することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たり生活情報をもとに利用者や家族の要望や意向を聞き取り意向を反映させている。ケアマネージャー、担当者、施設長が、カンファレンスを行い、介護計画書を作成している。介護計画書は利用者や家族に説明し、同意後署名押印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日常生活の記録は援助日誌に記録している。介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。また利用者の状態に変化が見られたときには必要な関係者がケアカンファレンスで話し合っで見直している。介護計画の遂行状況や効果を月に一回程度モニタリングし、記録に残すことができていない。	○	現場職員の介護記録、家族・本人の要望などを参考にし、介護計画の遂行状況による効果をモニタリングし記録に残すことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、墓参り、利用者の馴染の場所に出かけるなど本人の希望に添えるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者や家族の希望を聞き取っている。かかりつけ医への受診は主に家族が対応しているが、大半は協力医療機関に受診しており、職員が付き添っている。家族には面会時や電話で受診結果を伝えている。認知症専門医にも協力医療機関からの紹介で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入所時や退所時に話し合っている。現在医療連携加算はとっていない。従って重度化した場合の対応に係る指針も作成していない。ターミナルの問題が生じたときには、家族、医師、事業所間で何度も話し合いを持つといった経緯がある。今後利用者の重度化が考えられ、ターミナルに関するマニュアルや方針を作成することを前向きに検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員にプライバシー保護について内部研修を行い個人情報保護法の理解に努めている。職員は利用者に姓で呼びかけ丁寧に接している。契約書は事務所の鍵のかかる書庫に、個人情報が入力された記録は職員事務所の鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、出来る限り利用者その日その日の状況に合わせて対応している。利用者は本人のペースで起床し、朝食も好きな時間にとっていて、個別性のある生活をゆったりと過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が考えている。週2回はフリーの日を設け利用者の声を聞き取り、お好み焼きや焼きそば・ぶりの照り焼きなどがメニューにあがる。毎月バイキングと外食の日を設けている。外食週間には3日間をかけて一人ひとりの希望に添えるように支援している。利用者は食事の買出し、調理、盛り付け、後片付けなど力量に応じて参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は土・日曜日も含めて、毎日午後2時半から5時半の間の希望する時間に入ることができる。できるだけ同性介助を心掛け、入浴拒否の利用者には根気良く声掛けすることで支援している。利用者からは気持ちがいいと喜んでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の役割としては買出し、食事の盛り付け、食器拭き、洗濯物の取り入れ、たたみ、水遣り、楽しみごととしては生け花、折り紙、映画の日などがあげられる。事業所が力を入れている食の楽しみとしてバイキングや外食など食事の形態に変化をつけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所として、外出支援には力をいれている。日々の食材の買出し、散歩、ドライブ、外食等、全員が頻回に外出している。行事においても花見、だんじり祭り見学、神社、寺院などに出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>車が頻繁に通る大通りに面しているが、日中玄関のドアは施錠していない。利用者所在確認表を活用し、職員は30分毎に利用者の所在を確認し見守っている。外玄関ドアにはセンサーを設置し職員事務所でチャイムが鳴る。内部研修や日々のミーティングを行うことで、身体拘束の無いケアを実践している。</p>		
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災設備として、火災報知機、スプリンクラー、避難誘導灯を設置、消火器も3カ所に置き排煙窓もある。消防訓練も災害を想定した実践的な訓練を行い記録を残している。運営推進会議で地域の人々の協力を要請していて、緊急時には町内放送をしてもらえる。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に毎日の食事、水分摂取量を把握している。カロリー計算はしていないが、栄養のバランスを考えて献立を作り支援している。食事が進まない利用者には、会話をしながらゆったりとした雰囲気でお介助している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外玄関のドアを入ると窓越しに庭があり、小さな池に鯉が泳いでいるの見える。季節の飾り物やテーブルと椅子が置かれ、ほっとする場所でもある。内玄関で靴を履き替えると、隣にピアノで仕切られたリビングがあり、家族訪問時などにも落ち着いて寛ぐことができる空間となっている。食堂も床の色を抑え落ち着いた雰囲気になるように配慮している。中庭があり、日光浴を楽しんだりお茶を飲むことができる。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は明るく清潔である。ベッド、整理ダンスが置かれ、収納スペースが広く洋服等も整理整頓されている。利用者の家族に馴染みの物の持込みを依頼している。写真立てやアルバム、日記、置物、筆筒、机、テレビ、カーペット、位牌などが持ち込まれている。</p>		

※  は、重点項目。